

令和3年度国際文化交流学科 一般選抜（中期日程） 小論文 出題意図

I

1 問目は、「許容される」という表現が、高学歴層の側の自己正当化を皮肉ったものであることを読解できているかどうか、本文で描かれているエリート側からの学歴差別の論理を自分の言葉で表現できているか、をみる。

2 問目は、結果の平等ではなく機会の平等が阻害されている状況（たとえば国籍、性別、親の収入などが学歴を左右するような状況）についての考察力をみる。身の回りの状況だけでなく、日本社会における格差や差別について考えを巡らせているか、をみる。

II

近代の庶民生活史を研究する社会学者、武田尚子氏の著作『チョコレートの世界史 近代ヨーロッパが磨き上げた褐色の宝石』からの出題。ここでは十九世紀にココアやチョコレートがいかなるものとして扱われていたかをふまえながら、現代のチョコレートをめぐる消費のあり方を分析している。問1と問2では文章の記述をしっかりと理解し、問1では「肉体の震動」「力」、問2では「菓」「少量生産」「高価」「少量消費」というキーワードをしっかりと織り込みながら、簡潔に文章をまとめる力を問うている。問3では「誇示的消費スタイル」という概念を適切に理解した上で、解答者自らの経験にもとづいた例を挙げ、それについての考えを述べることが求められており、文章力に加え、日頃より自分を取り巻く社会的、文化的状況にどれだけ関心を向けているかを問うている。